

2025 秋の大運動ニュース No.1

2025 年 9 月 21 日

保育・学童保育・子育て支援の充実を求める 秋の大運動実行委員会

連絡先) 大阪保育運動連絡会 TEL06-6763-4381

実行委員会の構成：大阪保育運動連絡会・大阪学童保育連絡協議会・大阪自治労連（保育部会／指導員労組連絡会）・全国福祉保育労働組合大阪地方本部・社会福祉経営全国会議大阪支部

秋の大運動はじまるよ～



◎前半のとりくみ予定

9 月 21 日 スタート集会

10 月中旬～11 月中

自治体キャラバン

11 月 16 日（企画中）

11 月 17 日 署名 1 次締切・国会行動

2026 年 2 月 5 日 国会要請行動

☆秋の大運動とは一願いを届ける運動

働く保護者、保育者たちの願いをもとに、「秋の大運動」は毎年、保育・学童保育・子育て支援の充実のため国や大阪府や市町村に制度の改善を求めてきました。

誰もが安心して子どもを生み育てられ、子どもが元気に笑顔で育ってほしい。あたりまえのこととして入園・入所でき、子どもたちによりよい環境で育ってほしい…。でも、希望通りの入所ができない、保育室がギューギュー詰め、先生が大変そうで話しかけづらい、先生不足が理由でいろんな整備が進まない、保育料や経費の負担が重い…など「改善してほしいこと」は今もたくさんあると思います。

秋の大運動では、こうした願いを署名にすることで、多くの人（友だち、会社の人、家族・親せき、地域の人たちなど）に知ってもらい、賛同を広げてきました。

署名は、国会・府議会・（市町村議会）に届けられます。また議員さんとも懇談し、現場の想いや状況を伝えます。こうした活動を通じて、保育所や学童保育の大切さや課題が多くの人たちに伝わり、改善につながってきました。今年も、子どもたちの豊かな育ちのために、保護者が安心して働き子育てできるように、保育者が元気に働き続けられるように、力をあわせて秋の大運動を広げていきましょう。

☆実行委員長のご挨拶

実行委員長は 5 つの団体で順番に担っています。今年は全国福祉保育労働組合大阪地本委員長の島村さんです。

2025 年度の「秋の大運動」がはじまります。秋は年末から年明けにむけて、様々な行事が準備され、子どもたちや保護者のみなさん、保育者にとっても、楽しみで充実しているけれども、日々忙しく悩みや課題とも直面する時期でもあるのではないのでしょうか。

私たちがすすめる「秋の大運動」は、保育現場を豊かにし、「みんなのじんけん」が守られ、子どもも保護者も保育者も幸せに過ごせることをめざして行動します。国や都道府県、市町村では秋から 2026 年度予算の準備に入るため、この時期に保育の実施主体である市町村に保育施策の改善を求める取り組みです。そのため、子どもの声や大人たちの声をあげることは重要です。みんなで力をあわせて成功させましょう。

2025 年度人事院勧告の引上げで保育の公定価格も改善し新たな財源がうまれています。25 春闘では多くの職場で 1 万円超のベースアップを含む賃上げがされ、かつてない状況もうまれました。市町村でも保育士確保のための独自賃上げ施策が取り組まれています。一方で、他産業でも賃上げがされ賃金格差が再び開く状況もうまれ、「保育士の人材流出」をとめる施策の改善が引き続き求められます。また、世界と比べて低い保育士配置基準では、「子どもたちにもう一人保育士を！」の運動で配置基準の改善を実現しましたが、経過措置で加算対応にとどまり見直しが必要です。

2026 年度の「子どもだれでも通園制度」全国実施をはじめ、「児童福祉法等の一部改正」や「こどもまんなか実行計画 2025」なども動きだしています。通園制度では、子どもと保育士、保護者との丁寧な信頼関係をつくる上でも、保育現場に混乱をもたらすと懸念も大きくなっています。現場での矛盾や課題から出発した制度づくりと、現公的保育制度の充実こそ必要ではないのでしょうか。

最後に、国は 2026 年度概算予算でも軍事費を大幅に増やす予定です。こうした国づくりでいいのか問わなければいけません。「平和こそ最大の福祉」です。平和な未来を子どもたちに残すため、「秋の大運動」で福祉・子育て予算とゆたかな保育の実現を求め、頑張りましょう。

2025 秋の大運動実行委員長・島村一弘

☆秋の大運動のなかま

保育・学童保育に関係する5つの団体で構成されています。一緒にとりくむ団体を紹介します。

◎ 大阪保育運動連絡会(だいほれん)

子どもと働く者(保護者・保育者)の生活と権利を守るために 保育所・幼稚園の内容向上、保育者の処遇改善の運動をすすめることを目的とし活動はニュースの発行、学習、保育政策の改善のため調査研究と合わせ要求実現ため署名や請願行動などを行います。大保連の目的に賛同する団体(保育園・保護者会・労働組合など)と個人(保護者・保育者・研究者など)で構成しています。



◎ 大阪学童保育連絡協議会(がくほきょう)

学童保育が必要な1~6年生すべての子どもが入所でき、安心ですやかに育ちあえることをめざしています。情報交流をしながら、学童保育の内容充実・楽しい活動を考えあい、国・府に向けて施策充実を求めています。

子どもの声(ねがい)、異年齢仲間での育ちあい、共同の子育てを大切に、各地の保護者会・連絡協議会・指導員(支援員)会などでつながっています。



◎ 大阪自治体労働組合総連合(じちろうれん)

大阪府内の自治体(府・市町村)公共施設などの職員、子育て支援に関わって、保育所・認定子ども園・子育てセンター・障害児通園施設・学童保育などの保育士・保育教諭・非正規員・指導員・相談員・調理員・用務員・事務職などさまざまな専門職で作る労働組合です。

私たちは現場で抱える保育士不足、保育士の労働条件や労働環境の改善に向けて、みんなで力を合わせて様々な運動をしています。年に一度の秋の署名では、地域の保育関係者や保護者などと一緒に保育現場の声を上げながら一筆でも多く署名を集めていきたいと思ひます! 遇改善など、地域と繋がり、運動していきます。

「秋の大運動」が始まりました。子どもたち・大人たちの「思い」「願い」を集め届ける大切なとりくみです。

*私たちの願いを多くの方から賛同いただく「署名活動」

*府内43市町村の保育・学童保育担当者と情報共有・意見交換をする「自治体キャラバン」など、すすめていきます。

学習会や交流もしながら、子どもの育つ環境や子育て支援について、思いをだいあっていきましょう!



◎ 全国福祉保育労働組合大阪地方本部(ふくほう)

大阪府内の民間(私立)の保育園や、高齢者介護、障害児者施設・児童養護施設・福祉団体等の福祉職場で働く職員でつくっている労働組合です。

この間、公定価格の引き上げもあり、保育士の賃上げがなされましたが、物価高には追いつかず、全産業月平均に比べ、低い賃金差は埋まってません。

保育士不足も深刻で、他産業への流出もおこっています。「子どもの笑顔・発達保障・命を守りたい」「子ども一人ひとりとゆっくりかわり合いたい」「保育士ずっと続けたい」など保育労働者の思いを実現するためにも、働き続けられる賃金・処遇、労働基準法が守られる職員配置等、制度拡充をめざします。

◎ 社会福祉経営全国会議 大阪支部保育部会(ぜんこくかいぎ)

「権利としての社会福祉」を求め実現することがいまの時代に最も求められています。

大阪支部は子ども・障害・高齢の分野横断で「共同」して運動している社会福祉法人(主に)の全国組織の団体です。今年で大阪支部が発足して3年目を迎えます。支部の保育部会は大坂府内の保育園の園長が運営しています。連帯も強く他団体とも連動して研修、学習、調査、交流しています。

今年も秋の大運動に参加して、子どもたち、保護者、職員、地域のために制度拡充、処遇改善をめざしてともに運動していきたいと思ひます。

